

巻 頭 言

新学習指導要領による新しい教育課程の実施の始まる4月からは、きびしい国際的諸情勢の中で、80年代への道を進む数学教育のあり方について、慎重な研究が求められるものと考えられます。

本学会の年報は、11号を迎えるわけではありますが、このような時代に見事に答えている質の高い内容であり、本会会員の旺盛な研究意欲と真摯にとりくまれている研究者の良心のたまものと、ともに喜みたいと思います。

この学会の特徴としては、第一に、小・中・高・大の一貫性のもと、記念講演など有名な方々からお話をきいて数学教育の課題をしっかりとつかむことができることであり、第二に、現場の実践と理論研究の両面から課題にせまり成果をあげていることがあげられます。さらに、研究発表もバラエティに富み、その幅の広さ、層の厚さ、内容の深さが如実に示されていることです。

数学教育の研究や実践を更に深め、突りあるものにするためには、研究情報も広く把握することが大切で、理論と実践の接点を求めて、綿密な研究を積み重ねていく必要があります。この意味から、この年報に期待される役割は年々大きくなっています。

おわりに、世話人の献身的な事務と会員の皆々様の協力に敬意を表するとともに、多くの方の活発な討論や論文発表に対しての積極さと期待し、ますます発展されるよう祈念いたします。

昭和55年3月

石 山 弘 (山形県教育委員会)